

(社)日本原子力学会
第19回倫理委員会議事要旨

日 時 H17.3.30(水)11:00~13:50
場 所 東海大学17号館第3会議室
出席者 西原、宅間、班目、安藤、小沢、鐘ヶ江、北村、作田、鳥飼、中安、萩原、
別府、松尾、矢野の各委員(14名)

配布資料

資料19-1 第18回倫理委員会議事要旨(案)
資料19-2-1 倫理規程改訂に関する委員会審議事項
資料19-2-2 日本原子力学会倫理規程(2005年修正版)
資料19-2-3 第2回倫理研究会での倫理規程へのコメントに対する回答案
資料19-3 (欠番)
資料19-4 CSR指針作成について
資料19-5 東京電力の問題に関する提言のフォローについて
資料19-6 事例集整備状況について
資料19-7 (欠番)
資料19-8 「日本原子力学会誌」記事について
資料19-9-1 美浜発電所3号機二次系配管破損事故に関する意見表明(案)
資料19-9-2 2005年春の年会倫理委員会セッションプログラム(案)
参考資料19-1 経営倫理 No.40
参考資料19-2 関電美浜事故対応のために

議事

1. 資料19-1に基づき前回議事要旨を確認した。
2. 班目幹事から、資料19-2-2を用いて改訂倫理規程の現時点での姿の紹介が、また資料19-2-3を用いて第2回倫理研究会での倫理規程へのコメントに対する回答のたたき台の紹介があった。引き続いて資料19-2-1により倫理規程改訂のためのアンケートで賛否同数になったものの処理方法について議論した。行動の手引2-4については見出しを「経済性優先への戒め」として「会員は、原子力・放射線関連の施設の運転管理にあたり、目先の経済性を安全性に優先させない。」と原文に「目先の」を付け加えた形にすることとなった。行動の手引7-5において使われている「乖離」を「不整合」とするかどうかについては、この程度の問題の場合、賛否同数の場合は現状のままとすることとし、「乖離」のままとした。アンケートによる意見交換は最終段階に入っているが、委員以外の方からのコメントに対する回答案の審議もあるので、あと2ヶ月程度は続けることが説明された。

3. 鳥飼委員より、第 3 回倫理研究会の報告書は現在発言者に原稿のチェックをお願いしている段階であり、今後、出席者から出された意見への回答作成し、報告書としての書式の整え、印刷する予定であることが紹介された。
4. 資料 19 - 4 に基づき中安委員より C S R に関して倫理委員会内で実施したアンケート結果の一部が紹介された。今後のアンケート実施についてはタスクチームで検討し、次回委員会で紹介いただくこととなった。なお、原子力学会の倫理規程は主として個人が守るべきものとして作られているが、賛助会員が守るべきものである C S R についても倫理委員会で積極的に取り組むべきという意見があった。また、I S O では学会のような組織の S R はあまり議論されていないと考えられることから、その議論も必要との意見も出た。関連して、大学の S R が特に遅れているとの指摘もあった。
5. 資料 19 - 5 に基づき安藤委員より東電問題の提言のフォローに関する今後の予定の紹介があった。基本的にはアンケートで意見を集約していくが、細かい点については安藤委員、作田委員、松尾委員で協議して詰めることで了承された。全委員は 4 月 5 日までに、フォローコメントに織り込む内容と、最終案投票を実施する 4 月 20 日から 22 日までにメールが読めない場合の連絡方法とを、安藤委員に連絡することになった。なお、フォローコメントは 4 月 25 日に東電田村会長と西原委員長が対談する際に田村会長に手渡すこと、その後ホームページで公開することとなった。
6. 資料 19 - 6 に基づき作田委員より事例集整備の進捗状況についての説明がなされた。集まっている事例の提出者と個別にコンタクトし、そのまま使う許可を得た場合はなるべくそのままの形で、修正が必要な場合はこちらから許可していただける修正案を示してその修正版を、事例集に入れていくという方針の説明があった。事例につける質問は倫理規程(行動の手引)に照らして作っていくこととし、どの事例にも該当しない条文については別途事例を作っていくという方針が説明され、了承した。今後、出版するのかホームページで公開するのか等も議論することとなった。なお、すべての事例に「フィクションであること」の注意書きをいれるべきという注意があった。
7. 萩原委員より参考資料 19 - 1 の経営倫理という学会誌の「大学での講義要約シリーズ」という欄に原子力学会倫理委員会の活動紹介を載せる方向で検討が進んでいるとの報告があった。萩原委員が原稿のたたき台を作成し、班目幹事や安藤委員他がコメントすることで投稿原稿をまとめることとした。
8. 資料 19 - 8 により、安藤委員から原子力学会誌への記事投稿に関する提案があった。まず、倫理規程の改訂など倫理委員会の活動を特集記事として提案することとした。そのほかに毎号コラム欄を設けてもらって、トピックスや行動の手引の条文 1 つずつを裏話なども交えて紹介するなどの企画も提案することとした。特集記事については内容案を安藤委員が作成することとなった。また、コラム欄は安藤委員が最初の執筆を担当し、以後持ち回るという方向で考えることとした。
9. 班目幹事から美浜発電所 3 号機二次系配管破損事故に関して倫理委員会として意見表

明すべきという提案があった。意見交換の後、意見表明をとした場合の素案を作成することになり、資料 19 - 9 - 1 の案に赤を入れた素案と、各委員独自の案の両方を、安藤委員まで 4 月 5 日までに提出することとなった。

10 . 資料 19 - 9 - 2 により小沢委員から 2005 年春の年会倫理委員会セッションプログラムの確認があった。

11 . 7 月ごろ、倫理研究会を若狭地区で開催できないか、作田委員が検討することとなった。

12 . 次回は 5 月 18 日午後、学会会議室で開催することとした。